

君は何のために勉強するの？

＜私の出会った名物先生シリーズ①＞

私の中学時代の社会科教師のA先生。かつてハンドボールの国体選手として鳴らした、見るからに怖そうな体育系教師。しかし、その博学ぶり、知識量のすごさと言ったら驚くほど。椅子に腰を下ろしたまま、教師と生徒との問答で粛々と授業は進み、チョークや黒板はほとんど使いませんでした。

例えば、地理の授業での世界の国々の鉱物資源についての学習場面。資料集の片隅に普通なら見逃しそうな小さな文字で『タングステン』という用語が出てきました。「貝塚君、『タングステン』とは何だね。」「？・・・ウルトラマンに出てくる怪獣にそんなのがいたような気がするんですが。」「ばかやろう。ふざけるな。金属の名前だ。どんなところに素材として使われているかわかるか？」（そんなの教科書にも資料集にもものってないよ～）「わかりません。」と答えると、やおら教室の天井を指さして、「あの蛍光灯の両側の部分、あそこだな。フィラメントという部分だ。生きていうちにダイヤモンドにはお目にかかれなくても、『タングステン』は常に我々の身近にある。」すべてがそんな調子でした。

指名されて恥をかきたくないし、答えられないと癪なので、必死になって予習しました。当時はインターネットなんてもちろんなかったので、図書室の百科事典で授業に出てくる重要語句・用語等に関連して質問が出る内容を想像しながら片っ端から調べて授業に臨んだものです。まるでテレビアの世界です。質問されたことが誰も答えられずに、自分がちょうど調べた内容で答えられたときは、正直「やったあ！」と、鼻高々でした。

でも、そんな内容はテストにちっとも出やしません。「『タングステン』の産出量世界第一位の国は？」という問題ならまだしも、「『タングステン』が素材として使われているものは？」なんてどんな問題集や過去問にもありやしないのです。かくして授業とはまた別のテスト勉強が必要でした。ある時、勇気を振り絞って質問してみました。

「先生、これってテストに出る可能性はあるんですか？」「何？君はテストのために勉強しているのかね。了見の狭い考えだ。」一蹴されました。思えば、氏の授業は、今我々に求められている理想の指導のあり方には程遠く、時代遅れだと言えます。ただ、社会科という領域にとらわれない教科横断的な学習そのものでした。また、他人から注入されたのではなく、自分で苦労して調べた知識や情報は、深く長く持続するものなのです。原子番号74番・元素記号Wの『タングステン』君、ぼくは君の存在を一生忘れません。

皆さんは、子どもに、「どうして勉強しないといけないの？」と聞かれて、

何と答えるでしょうか。子どもの学習意欲を喚起し、勉強へのモチベーションを高めるためにも、勉強しなければならぬ理由の存在は無視できません。人それぞれの考えや答えがあるはずです。

◇いい高校や大学に入るためだよ。 ◇将来なりたい職業に就くためだよ。

◇今のうちに勉強しておかないと後で苦労するんだよ。

こういうことを言うのは、親御さんが多いかもしれません。いうなれば、家族として人生の先輩として、あなたの将来を最優先に考えていますよ的な発想ですが、もしかしたら親のエゴや見栄も見え隠れするような気がします。

◇広い視野で世界をみるためだよ。 ◇「生きる力」をつけるためだよ。

◇生活するうえで役立つ知識や技能を身に付けるためだよ。

◇好奇心や思考力、判断力、表現力を伸ばすためだよ。

◇“学び方”を知るためだよ。

我々教師や教育関係者は、こんなことを答える人も多いことでしょう。確かに正統でその通りの理由ですが、子どもにとっては前述の理由より身近に受け止めにくい内容表現で、ピンとこないかもしれません。本当にこう説明されて生徒がみんなやる気になれば苦労はないのです。

さて、5/31・6/1に、今年度最初の前期中間テストを迎えます。今、うちの学校の生徒に「何で勉強するの？」と聞けば、「定期テストが近いから」と答える生徒がたくさんいるでしょう。もし学校からテストの類をすべてなくしたとすると、子どもは勉強しなくなるかもしれません。ほとんどの子が喜ぶかもしれません。ほとんどの学校でテストを評価の貴重な原資の一つと扱っている現状を考えると、我々教師側もかなり戸惑うのではないのでしょうか。

現時点ではまだまだ現実社会での経験値がない中学生にとって、崇高で正統な学習が必要な理由や意義を見出すこと自体難しいものです。理由なんて何だっていいと思うのです。大切なのは、他人からのお仕着せのものでなく、本人が本人なりの明確な理由や意義を自分の意思としてもっているかです。

私の中学校時代の勉強へのモチベーションは2つありました。一つは、常に恐怖の対象として虐げられていた存在の二人の兄を見返す手立てが、勉強しなかったこと。もう一つは、自分が勝手に最大のライバル視していた同じクラスのS君には、スポーツや運動関係のどんな競技や種目で何一つ勝てなかったので、何とか頑張って勉強だけは勝ちたいと思っていたこと。

一度お子さんに聞いてみてください。「どうして勉強するの？」それに対する自分なりの明確な答えを持ち合わせていなければ、いつまでたっても、テストのための勉強、評価されるための勉強を続けることになるでしょう。

「テストでいい点をとると気分がいい。」「テストで〇〇ちゃんに負けたくない。」現時点なら、それはそれで明確な自分の考えでよろしいかと思えます。勉強は何のためにするかは人それぞれで複数解答あるでしょう。でも勉強は誰のためにするのか。もちろん自分自身のため。その答えは一つなのです。